

精密工業研究所 ホームページアドレス : <http://www.pi.titech.ac.jp/>  
ここに P&I ニュースのバックナンバーと最新版ものっております

## 目 次

巻頭言 .....	1	人事 .....	6
精研公開報告 .....	3	表彰関係 .....	6
第43回精研シンポジウム開催報告 .....	4	新人紹介 .....	7
第38/39回静粛工学セミナー開催報告 .....	5	精研談話会 .....	7
職場体験・見学会 .....	5	編集後記 .....	8

## 巻 頭 言

### 法人化半年を過ぎて

理事・副学長(研究担当) 下河邊 明

(本文は東工大クロニクル2004年12月号(No.394)より的一部転載です)



本学が国立大学法人となり、早くも半年以上が過ぎた。この間筆者は、研究戦略室、産学連携推進本部、総合安全管理センター等の責任者として、法人化以前から継続する業務及び法人化後の新規の業務などを、各組織のメンバーとともに遂行してきた。本稿では、これらについて紙面の許す範囲で紹介したい。

#### 1. 研究戦略室

研究戦略ポリシーペーパーを、平成16年度の研究戦略室の最重要課題として作成中である。過去3年間の研究戦略室の議論を踏まえ、本学の研究のあり方にくわえ、研究支援のあり方、産学連携のあり方などについてまとめる予定である。特にその中で、研究者の自由な発想に基づく長期的・基盤的な研究の実施こそが大学の使命であることを強調したいと考えている。またそのためには、従来のいわゆる校費の確保が重要であること、研究者の自由な発想による研究は自己責任で実施されるべきこと、大学として推進すべき課題の存在も必要であること、などを述べたいと考えている。

21世紀COEは、平成14, 15年度に続き、平成16年度にも公

募されることになり、本学では8件が応募することになった。研究戦略室では、今回の募集が「革新的な学術分野」という極めてあまい分野を対象としている点に特に留意しつつ、各申請拠点の学内ヒヤリング、申請書類作成のアドバイス、最終ヒヤリングの準備などをおこなった。その結果、本学からは3件が21世紀COEとして採択され、合計12拠点となった。本年度採択件数3件は、東大などの2件を上回り、全国1位の件数であった。

なお、平成14年度採択の4拠点については、早くも中間評価が始まり、その結果はまもなく明らかになる予定である。また、15年度採択の「都市地震工学の展開と体系化」拠点(代表大町達夫教授)は、すでに学内措置によるセンターを作り、現在文部科学省へ正式なセンター化を新規事項として要求するまでになっている。

科学技術振興調整費による戦略的研究拠点(スーパーCOEとも呼ばれる)育成プログラムへの応募も、研究戦略室としての重点かつ懸案の事項である。平成16年度は、「東工大特区・融合研究院」というテーマで応募し、最終ヒヤリングまでは進んだが、残念ながら採択には至らなかった。IT・BT・NT(情報・バイオ・ナノ)の融合研究の実施機能と、自由で中立的な発想をベースに長期的観点からの科学技術政策提言を行うシンクタンク機能を有する研究院を作るという発想であった。また、定年、給与などで大幅な規制緩和を実施することも目玉の一つとして考えたが、十分な理解は得られなかった。

海外調査は、研究戦略室設置以来、毎年欧米の大学・研究機関を対象に実施している。昨年度までは、IT・BT・NTの融合研究とのための組織の状況調査が中心であった。本年度の米国調査では、先般NHKで放映された無人自動車レースで取り上げられたカーネギーメロン大学のロボット研究所や国防総省も訪問し、米国における国民の安全や国防予算に関連した研究についての調査を実施している。

利益相反ポリシーについても議論した。利益相反は、大学の研究者と産業界の接点において発生するものであり、研究者の利益が大学(または国・国民)の利益が相反することであると考えられる。また多くの場合、実際に相反の事実が存在するかどうかよりも、第三者から見て、その疑いが存在するだけで、問題となるケースも多い。そのため、本学では、学外から本学を見たときに、十分透明で公平な対応をしていると理解されるように、利益相反ポリシーを定めた。また関連する兼業規則等も、このような考えを踏襲し、策定している。

東工大発ベンチャー制度をつくり、すでに25社を認定している。東工大発ベンチャーは、職員又は学生の所有する知財を活用した起業、本学の研究成果等を活用した起業又は本学の学生が起業した場合に与えられるもので、研究戦略室で審議し、学長が認定証を授与している。現在までに25社を認定している。当初は学生による起業がなかったが、最近では少しずつ増えている。なお、ベンチャー起業支援などは、産学連携推進本部、東工大TLO、蔵前工業会が行っている。

## 2. 産学連携推進本部

産学連携は、研究、教育と並ぶ大学の使命である社会貢献の重要な要素である。学術的価値を最優先して生産されてきた本学所有の知的資産を、より社会貢献という観点からも価値の高いものにするためのものであるともいえる。本学では、社会的価値の高い資産の活用を通じて本学の研究を推進し、新しい知的資産を創出してさらなる社会貢献へ発展させるという正の循環を作り出すため、産学連携推進本部を2003年9月に発足させた。

本部は、教員と事務職員の融合組織であり、産学連携推進コーディネータも含めて50名を越える組織となっている。国立大学時代は、共同研究の契約書等は、国の定めたものということで特に企業との個別交渉はなかったが、法人化後は全て民間対民間の交渉事という位置づけで、知財の取り扱いに始まり秘密保持期間等々、担当者は大変な苦労を強いられている。

産学連携推進本部は、東工大の名のもとに行われる全ての産学連携活動の学内外に対する一元的窓口と位置づけられている。従来からある(財)理工学振興会のTLO機能は、平成19年度より本部に統合することになっており、本年度より特許は本部が出願している。

知的財産ポリシーは、法人化後の大学が、それぞれの持ち

味を生かして策定するものである。本学のポリシーの要点は、以下のとおりである。

- 1) 発明の権利の大学帰属
- 2) 発明をなしたと考える場合は発明届けを提出(就業規則)
- 3) 職務発明か否か及び特許出願するか否かは本部で判断
- 4) 職務発明でない場合及び出願しない場合、権利は発明者に帰属
- 5) RA学生の発明は大学帰属(非常勤職員扱い)
- 6) 出願前の論文公表は容認
- 7) 発明者が知財化を望まない場合、その意志は尊重(ただし説得はあり得る)
- 8) 発明届けを提出しない場合、発明者個人による出願、権利の企業への譲渡は不可

なお現在、知財に関する企業との交渉においては、いわゆる不実施補償が大きな争点になっている。これは、共同研究の成果としての共有特許を企業が実施する際、大学は不実施機関であるのでロイヤリティーを支払うべきであるという主張に対し、企業側は民間企業間ではそのようなことはあり得ないという主張である。今後は、共有特許の実施による収入が発生しない場合も出てくることが予想され、本学としての対策を考える必要がある。

組織的連携は、大学と企業のトップが組織としての契約を結ぶもので、新しい産学連携の形態として重視している。これに対し、個別的連携は、従来からある共同研究による教員個人と企業との連携(この場合も、研究契約は大学と企業の間で締結される)である。本学の組織的連携の特長は、

- 1) 必ず数件の個別共同研究を組み込み、具体的な研究成果が得られるようにする
- 2) 研究推進委員会を設け、個別共同研究も含め、連携の進捗状況をチェックする
- 3) 大学・企業間の研究交流会を開催し、次の個別共同研究のテーマ探索をする

すでに、製造業6社(三洋電機、三菱化学、富士通研究所、松下電器産業、三菱電機、凸版印刷)、非製造業2社(三菱商事、三井住友銀行)との組織的連携協定を締結している。特に今回連携した非製造業2社は、全国規模あるいは全世界規模で、知的資産の社会的価値創出に豊富な経験を持っている。本学としては、従来のTLOや産学連携コーディネータとは異なる枠組みでの連携の推進を期待している。

間接経費は、共同研究企業あるいは受託研究委託元に、直接的研究経費に上乗せを依頼しているもので、直接経費の30%を原則としている。間接経費は、大学の研究・教育基盤整備、光熱水料、経費処理、知財管理などの全学経費、部局における基盤整備、全学的に合意された特別経費(例えば今年度は電気メータの整備)等に使われる。新規の共同研究については、企業が間接経費30%をほぼ認めるようになり、政府関

連資金についても、来年度21世紀COEについては措置される方向にあるなど、本学の主張は受け入れられつつある。今後は、小型の科研費を除き、間接経費の措置されない経費による研究は学外で実施するというのも、検討すべき一つの方向ではないかと考えている。

むすび

法人化で、何もかにもが大学が自由にできるようになっ

たわけでもない。大学予算の6割を国からの運営費交付金によっているのだから、という理由で制約されることも多かった半年であった。効率化をめざし、かえって不便になってしまったこともある。適用される法律が変わり、民間企業と同様にきびしく対処しなければならない場合も多くなった。法人化前後でなにが変わり、どのようによくなったのか、あるいは悪くなったのかの点検評価が必要であると考えている。  
(東工大クロニクルNo.394より一部転載)

## 精研公開報告

精密工学研究所公開が2004年10月22日(金)に開催されました。昨年度からは、すずかけ台キャンパスにある研究および教育研究組織が一丸となり、技術者、研究者、企業家、起業家などの専門家を対象として「すずかけ台キャンパス学術・研究公開」を実施しており、精研公開はその一部となりました。さわやかな秋空の下、250名余りの多数の方々においでいただくことができました。研究室の公開では、参加者の皆様から熱心な質問をいただき、大変有意義な研究交流ができました。学術講演会では精密工学研究所から極微デバイス部門の小林功郎教授と知的財産利用支援システム客員研究部門の大嶋洋一教授のお二人にご講演をいただきました。小林教授は「光通信:数mから数1000km,そして数cmへ」と題して、今日の情報通信基盤である光通信の研究開発の歴史をスケール大きく語っていただきました。光通信は本研究所の重要な研究分野の一つであり、マイクロシステム研究センターを中心に今まで以上に研究を進展させ、社会に貢献できることを願っています。大嶋教授には「半導体研究開発の知財戦略」と題して、研究開発においてますます重要性を増している知的財産の考え方、活用の仕方などを半導体研究開発を具体例として分かりやすくお話いただきました。社会に開かれた研究所を目指す本研究所では、研究開発における知的財産の重要性を認識し、一昨年より知的財産利用支援システム客員研究部門を新設して活動しております。

大学の独立法人化が行われ、附置研究所の社会的役割も今まで以上に期待されてきています。キャンパスの外に向

けた貴重な窓口の一つとして、研究所公開をさらに充実させていきたいと願っています。

文責 佐藤 誠(広報委員長・知能化工学部門・教授)

学術講演会 一場所:すずかけホールー

13:00ー (応用セラミックス研究所)

阿竹 徹 教授

「熱・温度計測と材料解析」

13:40ー (大学院生命理工学研究科)

丹治保典 助教授

「バイオフィルムの制御と環境浄化」

赤池敏宏 教授

「再生医療と遺伝子治療をめざして」

15:00ー (大学院総合理工学研究科)

石原 宏 研究科長・教授

「次世代強誘電体メモリーの研究開発」

15:40ー (精密工学研究所)

小林功郎 教授

「光通信:数mから数1000km,そして数cmへ」

大嶋洋一 教授

「半導体研究開発の知財戦略」

学術懇談会 一場所:すずかけホール3Fラウンジー

17:30ー19:00



研究室の公開の様子

## 第 4 3 回 精 研 シ ン ポ ジ ウ ム

第43回精研シンポジウム「知財シンポジウム－半導体知財の最前線－」が平成16年11月8日に東京工業大学すずかけキャンパス・すずかけホールで開催されました。所内外、学内外合計210名の方の参加がありました。知的財産を有効活用し、半導体分野において第一線で活躍する研究開発者、経営者、知財関係者を招聘し、各位の個性的な知的財産に関する体験および御意見を直接語ってもらうことで、知財専門家は格別、半導体分野の若手研究者から第一線の研究者まで、多面的に知的刺激に富んだ機会の創設を目指しました。また、それと同時に、本シンポジウムを通じて、知的財産制度自身が正しく機能するための知財マインドの形成・発展に重点を置き、「自らの成果を主張するために、まず他人の成果を正当に評価する」という知財のマナーを身につけることの重要性を自覚する機会としました。

- 10:00－10:15 開会の辞  
上羽貞行(精密工学研究所所長)
- 10:15－10:45 大嶋洋一(東京工業大学客員教授・特許庁)  
エンジニアと知的財産
- 10:45－11:30 大見忠弘(東北大学)  
産官学連携と知的財産
- 11:30－12:30 昼 食
- 12:30－13:15 河合弘治(パウデック)  
化合物半導体ベンチャの知財戦略
- 13:15－14:00 山崎舜平 (半導体エネルギー研究所)  
加藤与五郎先生の教えに基づく発明のたとえ－不揮発性メモリの例－
- 14:00－14:30 休 憩
- 14:30－15:15 山品正勝(NECエレクトロニクス)  
設計資産と知財戦略
- 15:15－16:00 萩本英二(イーエイチクリエイイト)  
Jisso分野における知財戦略
- 16:00－16:15 休 憩

- 16:15－17:00 野瀬佳一(三菱商事)  
投資家から見た知的財産
- 17:00－17:30 泉谷渉(半導体産業新聞)  
総評(ジャーナリストから見た知的財産)
- 17:30 閉会
- 17:40－ 懇親会及びパテントコンテスト表彰式

シンポジウムと同時開催された第1回P&Iパテントコンテストでは、2000年1月1日～2003年12月31日までに国内で成立した特許のうち、国内外の大学(または学長)が特許権者として含まれる半導体関係特許(IPC分類で、H01L及びH01S)についてパテント・オブ・ザ・イヤ－(半導体産業に対して、実用的・実効的な貢献を期待される特許)、パテント・オブ・ザ・ベンチャー(ベンチャー企業へ展開が可能な有望シーズ技術に関する特許)パテント・オブ・ザ・フロンティア(将来の新しい産業を切り拓くものとして基礎的な貢献が期待される特許)の各賞を大学発の特許への評価を高めるために、選出しました。各賞の受賞者は以下の通りです。

### 【パテントコンテスト受賞者(敬称略)】

- パテント・オブ・ザ・イヤ－  
名城大学・教授 赤崎 勇 他4名
- パテント・オブ・ザ・ベンチャー  
名古屋大学・教授 菅井秀郎 他1名
- パテント・オブ・ザ・フロンティア  
山口東京理科大学・教授 松原覚衛 他1名

- 文責 大嶋洋一  
(知的財産利用支援システム研究部門・客員教授)
- 益 一哉  
(極微デバイス部門・教授)



すずかけホールでの講演会の盛況ぶり



パテントコンテスト表彰式の様子

静肃工学セミナー・通算第38回および第39回がつぎのとおり開催されました。本学「すずかけホール」にてそれぞれ学内外約40人の参加者のもと、「環境」、「快適音」、「音質」に関する最新のトピックについて話題提供と活発な議論が行われました。

第38回 平成16年10月5日(火)

(1)「架空送電線路から発生する風騒音と低減化技術について」

窪川 弘氏(ジェイ・パワーシステムズ)

架空送電線は昭和47年頃からの超高压化、大容量化と市街地への接近に伴い、強風時に送電設備から発生する風騒音が問題となってきた。それらの要因として、電線周りの流れの、電線の地上高、碍子の共鳴、鉄塔自体の問題等をあげて電気的な特性との協調面も含めた対策の実際と成果について説明された。

(2)「流体機械の快適音化に関する試み」

御法川 学氏(法政大学)

身近な流体機械の静音化要求に対して、単に騒音レベルを下げることも、耳障りでない音質にすることの重要性を指摘して、音質評価手法を用いながら、小型ファンやポンプについての音の改善事例が紹介された。また、同じ流体音でありながら心地よい音とされる自然水流の音と流体機械の音を比較し、快適音化の糸口を見出そうとした試行について紹介された。

(3)「能動消音による音質改善」

穂坂 倫佳氏(東芝)

機械騒音では、周波数スペクトル上に離散的なピーク音が存在する事がある。このとき、全体的にレベルを下げて、聴感上はピーク音に対してまだ耳障りだと感じる事がある。この特性から、離散的なピーク音のみを能動消音技術を用いて発生元から低減する手法を提案して音質改善ができた事例が紹介された。

(4)技術懇談会

第39回 平成17年3月2日(水)

(1)「都市ガス供給システムにおける騒音問題の現状と対処に関して」

香川 利春氏(東工大)

都市ガス供給において、幹線では4-5MPaの圧力でパイプの中にガスを流し、中圧、低圧の3kPaに減圧し供給している。この供給、減圧の過程で騒音振動が発生し、環境問題となる場合がある。このことに関して、いくつかの事例とその対処策が紹介された。

(2)「CVTベルトノイズの評価法について」

横山 嘉昭氏(ジヤトコ)

FF車用スチールベルト式CVTの開発に際しては、そのベルトから発生する高周波騒音の低減を主としてケース放射音に関して対策が行われている。その為に必要なCVTユニットとしての放射音評価法及びベルト単体の振動性能評価法について紹介された。

(3)「深い感性のテクノロジー」

宮原 誠氏(北陸先端科学技術大学)

深い感動は、暗、静な環境に身を置いて、そこで環境と気を通じてもたらされる場に、高度感性情報を提示して喚起される。そのための高品質な道具、システムを作るとともに、目利き(耳利き)として高品位な作品を探し、編集し、コンテンツを作り、結果の評価も行う。これを行える情報マイスターを育てる必要もある。これらのことについて議論された。

(4)技術懇談会

職 場 体 験 ・ 見 学 会

中学生職場体験

八王子市立別所中学校の生徒(1名)が北條・松村研を訪れ、大学院講義の参観・研究室ゼミ参加・研究室見学・工場見学を実施した。(平成16年7月13日～14日)



高校生体験セミナー

自修館中等教育学校(高校)の土曜セミナーとして、生徒10名と教員5名が来所し、メカノマイクロプロセス室において電子顕微鏡の写真撮影実習を行った。詳細は自修館HPをご参照下さい。

<http://www.jishukan.ed.jp/sat04/daigaku2/tokodai.html>

(平成16年7月17日)



米沢テクノサークル「先端技術関連見学会」  
 米沢市の電機工業会である「米沢テクノサークル」の皆さん  
 8名が「先端技術関連見学会」として精密工学研究所を訪れ、  
 創造研究棟、B棟、C棟の研究室、機械工場などで先端研究や  
 設備を視察された。  
 (平成16年11月18日)



創造研究棟VRシステムを見学する  
 「米沢テクノサークル」の皆様。  
 説明は佐藤誠研・橋本助手。

門機能評価分野(高島和希助教授)、知能化学工部門ヒューマ  
 ンインターフェース分野(橋本直己助手)、先端材料部門極限  
 材料分野(神谷大揮助手)、同材料設計分野(若島健司教授)を  
 見学した(括弧内は説明者)。  
 (平成16年10月4日)



堀江研で説明を受けるJICA見学団。  
 説明は堀江研・神谷助手。

#### JICA見学会

JICAより委託を受けている(財)大阪市立工業研究所の研修  
 員5名(アルゼンチン、中国、メキシコ、フィリピン、スリラン  
 カ)と引率の大阪市立工業研究所・水内潔主任、日本国際協力  
 センター・吉川彩子研究監理員らが本研究所を訪問された。  
 横田真一副所長から本学および本所の説明を受けた後、マ  
 イクロシステム研究センター(小山二三夫教授)、先端材料部



所長室に集合したJICA見学団のみなさん。

## 人 事

#### [着任]

並木 淳治 (8月1日)  
 光エレクトロニクス研究部門 客員教授  
 仁道 正明 (8月1日)  
 光エレクトロニクス研究部門 客員教授

#### [退職]

桜井 欣夫 (8月31日)  
 精機デバイス・精密機素 技術職員

#### [転出]

James R. Friend (9月15日)  
 極微デバイス・波動応用デバイス 助手  
 (新)Australia・Monash University 講師  
 高島 和希 (2月28日)  
 先端材料部門 助教授  
 (新)熊本大学 教授

## 表 彰 関 係

岡田健一助手  
 「井上研究奨励賞」受賞  
 (平成17年2月4日)

伊藤浩之氏  
 「2004 IEEE EDS Japan Chapter Student Award」受賞  
 (平成17年1月17日)

岡田健一助手  
「Ericsson Young Scientist Award 2004」受賞  
(平成16年11月22日)

奥村 学教授  
天才プログラマー／スーパークリエイター  
(平成16年9月10日)

James R. Friend助手  
「日本音響学会ポスター賞」受賞  
(平成16年9月29日)

長谷川晶一助手  
「EuroGraphics 2004 Best Paper Award 3rd prize」受賞  
(平成16年9月3日)

山崎啓介助手  
「日本神経回路学会研究奨励賞」受賞  
(平成16年9月28日)

西山勇一氏、佐藤千明助教授ら  
日本接着学会第42回年次大会「ベストポスター賞」受賞  
(平成16年7月27日)

秦 誠一助手  
社団法人精密工学会「ベストプレゼンテーション賞」受賞  
(平成16年9月17日)

藤塚将行氏、沢田 茂氏、佐藤千明助教授ら  
日本接着学会第42回年次大会「ベストポスター賞」受賞  
(平成16年7月27日)

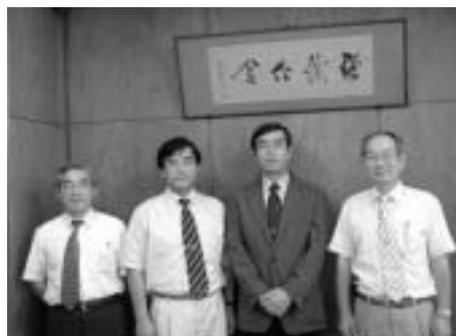
堀江三喜男教授  
社団法人精密工学会「ベストオーガナイザー賞」受賞  
(平成16年9月17日)

岡田健一助手  
情報処理学会「山下記念研究賞」受賞  
(平成16年7月22日)

## 新 人 紹 介

並木 淳治  
光エレクトロニクス研究部門 客員教授  
(日本電気(株)支配人)  
[専門] 無線通信システム、適応受信制御技術、マルチアクセスプロトコル、システムモデル化と数値解析、光通信技術。

仁道 正明  
光エレクトロニクス研究部門 客員教授  
(日本電気(株)システムデバイス研究所主任研究員)  
[専門] 面発光レーザーや波長多重用DFB レーザを用いたメトロ・アクセス系光通信用モジュール、光インターコネクション用モジュールの開発。



小林教授 仁道 正明 並木 淳治 上羽所長  
客員教授 客員教授

## 精 研 談 話 会

本研究所では、所員の情報収集、勉強のために講演者をお招きして、不定期に談話会を開いています。予告や報告はホームページ「新着情報」に掲載しております。

2004.6.1  
浜田賢一(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
再生修復医歯学部門 顎口腔再建医学講座 生体材料工学  
分野・助教授)  
「スマート材料の歯科応用」

2004.6.4  
John Norgard (Electromagnetics Laboratory Department of Electrical & Computer engineering College of Engineering & Applied Science University of Colorado USA・Professor)  
Infrared Images of Electromagnetic Fields

2004.9.17  
土橋宜典(北海道大学情報科学研究科メディアネットワーク専攻・助教授)  
「自然現象のシミュレーション」

2004.9.27

Dr. L. Chrostowski(University of California - Berkeley, Berkeley, CA, USA)

High speed modulation of injection locked VCSELs

2004.10.5

Dr. Nobuhiko Nishiyama (Corning Incorporate, Corning, NY, USA)

1.3um InP based VCSELs

2004.11.9

和田俊和(和歌山大学システム工学部通信情報システム学科・教授)

「空間分割による最近傍識別と非線形写像の学習アルゴリズム:その理論と応用」

2004.11.25

山本玲子(物質・材料研究機構(NIMS)生体材料研究センター・主任研究員)

「生体用Niフリー金属材料の生体適合性評価」

2004.12.15

梅村晋一郎(日立中央研究所・主任研究員)

「超音波診断装置の基礎と最新技術」

2005.1.27

並木 淳治(精研光エレクトロニクス客員研究部門・教授、日本電気株式会社・支配人)

Broadband & Mobile Network – Today & Tomorrow –

2005.2.9

Prof. Dr. Minyang YANG(KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology), Korea・Professor)

Hybrid approach to high performance CNC milling with tool wear monitoring

2005.2.24

仁道 正明(精研光エレクトロニクス客員研究部門・教授、日本電気株式会社システムデバイス研究所・主任研究員)

「低消費電力&小型10Gベース・フロントエンドモジュール」

加藤誠志(バイオテック集積工学客員研究部門・教授、国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部・部長)

ヒト細胞ナノマシンの全部品を集める

2005.3.10

田中元直(東北厚生年金病院・名誉院長、旧医用計測客員部門教授)

「新三の3次元生理学への超音波計測法によるアプローチ」

大槻茂雄(精密工学研究所・教授)

「人間の思考と計算機に注目して45年(退職記念講演)」

## 編集後記

法人化最初の1年が終わろうとしています。巻頭言にあるように新しい東工大に生まれ変わるための様々な変革が強力で推し進められています。経営戦略、運営の仕方、お金の動き方などの変化の他に、労働安全関係でも一般の会社と同じような運営、管理体制に急速に切り替えており、実験室環境も変わりつつあります。学生諸君を職員のようにみなして安全教育を行うとともに、什器の転倒防止策から、消火器の配置方法、高圧ガスボンベの管理方法など、「そんな法律があったんだ…」と戸惑いつつも、精研は所内のまとまりの良さと機動性で、どの項目でも東工大中の先陣を切って新しい取り組みを行っています。R2棟1階に自由に打ち合わせなどが行える「談話室」を新設したり、エレベーターのリフォーム、低層等の内壁を明るい色に塗り替えるなど、施設の改善も進めています。

広報活動も、ホームページの充実を中心に、従来からのパンフレットのデザイン一新、要覧の発行(5月)、P&Iニュー

ス、精研公開など活発に行っています。「そんなにいろいろ忙しくてだいじょうぶかな」とご心配のむきもあるかもしれませんが、HPにデータを集中し、そこからパンフレット、要覧、P&Iニュースを半自動で効率的に制作する、HP担当者、データ整理担当者を非常勤で雇用するなどにより、教員の負担を最小にする工夫をしているところです。

優秀な大学院学生とくに博士課程学生を集めること、2006年に学部に入學する新指導要領で勉強してきた新入生の教育、校費から競争的資金への一層のシフトなどのむずかしい状況の中でつねに世界の先を行く成果を挙げるためには、卒業生の皆様やOBの皆様のご助言とご協力がますます貴重になると思われます。

今年の「すずかけ祭」は5月14～15日です。精研でも研究室公開を行いますので、この機会にぜひ「すずかけ台キャンパス」におでかけ下さい。次号P&Iニュースは6月末ころの発行予定です。

文責 中村健太郎(極微デバイス部門・助教授)